

# 蓮沼中鏡

## 家庭学習について

### 家庭を学びの場に



生徒の学力向上を図ることは、蓮沼中の重要な役割だと思っています。同時に「向上心あふれる学校」をめざし、「真剣に学び、自ら考え判断し、行動できる生徒」に成長させるためには、家庭とのかかわりが大切だと考えています。学校・教員と家庭・保護者が互いに連絡し合い、助け合いながら生徒の学習意欲を高め、家庭学習の習慣化を図っていききたいものです。

### 家庭学習の重要性



家庭学習はなぜ重要なのでしょうか。次のような教育的効果が期待できます。

#### ① 授業の内容を補完する

「授業の内容を補完する」というのは、学習した内容を定着させるということです。学校や塾で勉強して『理解』する『わかる』ことはある程度できるかもしれませんが、しかし、それを表現できる…もっと言えば、テストで点数がとれるかというそれはまた別の話です。点数として結果を出すためには『わかる』ことを『できる』ようにしなくてはなりません。問題演習であったり、暗記であったり、わからない箇所を確認して復習することであったりと内容は様々です。授業を受けただけで完璧になることは、まずありえないのでそれを補うことができます。

#### ② 授業に備える

「授業に備える」というのは、授業での理解度を少しでも上げるために事前の準備をするということです。授業の内容が理解できなければ、その内容を補完するための勉強にも、時間がかかるようになってしまいます。授業というのは基本的に一人の生徒が多数の生徒に語りかける形で行われます。勉強のペースというのは一定ですから、苦手なところであったりすると理解できないまま進んでしまうことがあります。そうならないように、次の授業のほしい内容くらいは把握しておくことで授業がより分かりやすく楽しくなります。

#### ③ 脳の活性化

読み・書き・計算を毎日繰り返すことは、脳の活性化につながると言われています。脳も手足の筋肉と同じように、毎日繰り返し使うことで活発に働くようになるのです。鍛えれば、鍛えるほど発達し、たくましくなって、脳がいろいろなことにうまく使えるようになります。

#### ④ 学習の習慣化

毎日、一定時間、決まった場所で家庭学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣が身につきます。毎日続けることで、やがて、当たり前前の習慣になり、生徒たちの「学ぶ力」を育てるという大きな力になります。

#### ⑤ 忍耐力・根気・集中力の強化

家庭学習の最大の敵はテレビやゲーム、スマホなどの誘惑です。この誘惑に打ち勝つことにより、我慢強さ、根気、集中力を養うことができます。テレビやゲーム、スマホの時間を決めて学習や読書等の時間をしっかりと確保したいものです。

これらの効果を上げるためには家族全員の協力が必要です。

夏休みに家庭学習の習慣化を図っていきましょう。

## 生徒が心がけること

- ※ 学校の授業に集中し、分かりやすいノート整理を心がけよう。
- ※ 家庭学習の目的を明確にしよう。
- ※ 家庭学習の内容を具体的に決めよう。

## 体罰0を続けるために 連沼中での取り組み

本校では、毎年体罰を起こさないようにするため、教職員全員で研修会を行っています。今年度も7月11日に実施しました。

研修会の内容は、教職員の人権感覚を磨くことを中心に、感情の適切なコントロール方法などについて事例を挙げながら行います。

もちろん、普段から生徒・保護者・地域との信頼関係を築くことを第一に考えた指導を展開し、生徒を「見放さない 切り捨てない 決めつけない」生活指導を実践するようにしています。体罰をしない粘り強い指導を心がけていきます。

今年度の本校のスローガンは、下にある通りです。



## ご入金のお願い

8月1日に給食費・教材費などの口座引き落としがあります。夏休みではありますが、例月の引き落としになりますので、前日までに個人の口座に引き落とし額以上の残高があるようご準備ください。引き落とせない場合は、9月に合計額での引き落としになります。

## 毎日の学習の流れ

◎ すべきことを決める  
(宿題やその日に学習したことの復習を確認する)

◎ いつやるのか割り振る  
(次の日登校するまでの間で、いつやるのか決める)

◎ 実行する

## うれしく思ったこと第3弾

今年の夏に開催されるリオデジャネイロオリンピックの陸上100m日本代表にケンブリッジ・飛鳥選手が選ばれました。実は、このケンブリッジ君は、中学校3年のとき、私が担任したクラスにいた生徒なのです。

中学校でも陸上部に所属し、200mの東京都代表で全国大会にも出場しました。6月の面談で、「自分は全国大会に出る」と宣言しました。担任の私は「出たら必ず応援に行くよ」と約束しました。彼は、宣言通り出場を果たし、夏休みに私は新潟まで応援に行きました。また、運動会では色別対抗リレーの選手として、6色あったうち第4位でバトンを受け、一周130mという狭いトラックで3人抜きをして1位になるという活躍もしてくれたのです。あの当時は、今のようにたくましく鍛えられた体格ではありませんでした。全国大会予選落ちした彼が、100mで開花してオリンピックになるとは、驚きと同時に我が子のようにうれしいものです。もちろん高校時代はインターハイで自校の総合優勝や400mリレー優勝などの実績を積みました。しかし、大学時代は、2位か3位という形で桐生選手の陰に隠れていたのです。ひそかに応援していましたが…。それが本人の努力のたまものなのでしょう。オリンピック出場の夢を果たしたのです。

先日「女性自身」という雑誌の取材があり、私はそれにこたえました。その記事が7月19日号に掲載されました。すると、お母様からわざわざ学校に電話がかかってきて、「取材にご協力いただきありがとうございます」というお礼でした。8年もご無沙汰している方からの電話に感激すると同時に、このようなお母様で、礼を重んじる環境で育ったからこそ今の彼があるのだと改めて思いました。ケンブリッジ君のリオでの活躍を期待して。